

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 29 年 2 月 16 日 (2017.2.16)

【公開番号】特開 2015-183105 (P2015-183105A)

【公開日】平成 27 年 10 月 22 日 (2015.10.22)

【年通号数】公開・登録公報 2015-065

【出願番号】特願 2014-61242 (P2014-61242)

【国際特許分類】

C 0 9 D 201/00 (2006.01)

C 0 9 D 5/44 (2006.01)

C 0 9 D 5/02 (2006.01)

【F I】

C 0 9 D 201/00

C 0 9 D 5/44 B

C 0 9 D 5/02

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 1 月 6 日 (2017.1.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

乳化重合樹脂を含むアニオン電着塗料組成物であって、

前記乳化重合樹脂は、カルボキシ基含有樹脂乳化剤 (A) および硬化剤 (B) を含む水系溶媒中で、重合性単量体 (C) を乳化重合して得られる乳化重合樹脂であり、

前記乳化重合樹脂における各成分の質量比率は、カルボキシ基含有樹脂乳化剤 (A) 20 ~ 50 質量%、硬化剤 (B) 20 ~ 50 質量% および重合性単量体 (C) 20 ~ 40 質量% である、

アニオン電着塗料組成物。

【請求項 2】

前記カルボキシ基含有樹脂乳化剤 (A) が、数平均分子量 5000 ~ 50000 である、請求項 1 記載のアニオン電着塗料組成物。

【請求項 3】

前記カルボキシ基含有樹脂乳化剤 (A) が、酸価 20 ~ 150 mg KOH / g である、請求項 1 または 2 記載のアニオン電着塗料組成物。

【請求項 4】

前記アニオン電着塗料組成物の樹脂固形分に対する、前記乳化重合樹脂の樹脂固形分比率は、80 ~ 100 質量% である、請求項 1 ~ 3 いずれかに記載のアニオン電着塗料組成物。

【請求項 5】

前記カルボキシ基含有樹脂乳化剤 (A) は、カルボキシ基および水酸基を有するアクリル樹脂である、請求項 1 ~ 4 いずれかに記載のアニオン電着塗料組成物。

【請求項 6】

前記硬化剤 (B) は、メラミン樹脂硬化剤およびブロックイソシアネート硬化剤からなる群から選択される少なくとも 1 種である、請求項 1 ~ 5 いずれかに記載のアニオン電着塗料組成物。

**【請求項 7】**

前記重合性単量体 (C) は、アルコキシシリル基含有重合性単量体を、重合性単量体 100 質量部に対して 0.5 ~ 10 質量部含む、請求項 1 ~ 6 いずれかに記載のアニオン電着塗料組成物。

**【請求項 8】**

乳化重合樹脂を含むアニオン電着塗料組成物の調製方法であって、

前記乳化重合樹脂は、カルボキシ基含有樹脂乳化剤 (A) および硬化剤 (B) を含む水系溶媒中で、重合性単量体 (C) を乳化重合して得られる乳化重合樹脂であり、

前記乳化重合樹脂における各成分の質量比率は、カルボキシ基含有樹脂乳化剤 (A) 20 ~ 50 質量%、硬化剤 (B) 20 ~ 50 質量% および重合性単量体 (C) 20 ~ 40 質量% である、

アニオン電着塗料組成物の調製方法。

**【請求項 9】**

前記乳化重合樹脂は、硬化剤 (B) およびカルボキシ基含有樹脂乳化剤 (A) の一部を含む水分散液に、重合性単量体 (C) およびカルボキシ基含有樹脂乳化剤 (A) の残りを含む乳化液を加えて乳化重合して得られる、乳化重合樹脂である、請求項 8 記載のアニオン電着塗料組成物の調製方法。

**【請求項 10】**

前記アニオン電着塗料組成物の樹脂固形分に対する、前記乳化重合樹脂の樹脂固形分比率は、80 ~ 100 質量% である、請求項 8 または 9 記載のアニオン電着塗料組成物の調製方法。